

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	赤星病	胴枯病	枝枯病	疫病	黒斑病	紅粒がんしゅ病	黒星病	輪紋病	白紋羽病	炭疽病	腐らん病	心腐れ症(胴枯病菌)	うどんこ病	褐色斑点病	ごま色斑点病
I Cボルドー48QFL	M1		*g	-							◎								
I Cボルドー412FL	M1		-	-								◎							
石灰硫黄合剤	M2		*c	-							◎								
アグロケア水	BM2		1	-							◎								
エコショット顆水	BM2		1	-					◎		◎								
ボトキラー水	BM2		*i	-							◎								
ミギワ20FL	52		1	3														◎	
トップジンM水	1		1	6	◎						◎	◎			◎	◎	◎		
		*a	1									◎							
		*j	1										苗						
トップジンMペースト	1		*d	3	◎			◎	◎		◎			◎					
ベンレート水	1		1	4	◎						◎	◎					◎	◎	
		*f	2	マ	マ														
プロパティFL	50		3	3														日	
アフエットFL	7		1	3	◎						◎							◎	
カナメFL	7	劇	1	3	◎				◎		◎	◎							
バシタック水75	7		60	5	◎														
バレード15FL	7		1	2	◎				◎		◎	◎						◎	◎
フルーツセイバーFL	7		1	3	◎				◎		◎							◎	◎
アミスター10FL	11		1	5					◎		◎	◎		◎				◎	
スクレアFL	11		1	3	◎						◎	◎					◎	◎	
ストロビーDF	11		1	3					◎		◎	◎		◎				◎	
ファンタジスタ顆水	11		1	3					◎		◎	◎		◎		◎		◎	
フリントFL25	11		1	4								◎							
ランマンFL	21		3	3				日											
フロンサイドSC	29		30	1					◎		◎	◎	◎						
フルピカFL	9		21	5							◎								
ユニックス顆水47	9		21	3					◎		◎								
ロブラール水	2		14	5					◎										
フジワン粒	6		*e	2									◎						
アンビルFL	3		7	3	◎						◎	◎						◎	
インダーFL	3		7	3	◎						◎	◎						◎	
オーシャイン水	3		1	5	◎				◎		◎							◎	
オーシャインFL	3		1	5	◎						◎								
オンリーワンFL	3		1	3	◎				◎		◎	◎						◎	
サルバトールME液	3		21	3	◎						◎							◎	
サンリット水	3		7	3	◎						◎							◎	
スコア顆水	3		14	3	◎				◎		◎	◎							
トリフミン水	3		1	3	◎						◎							◎	
マネージDF	3		21	3	◎						◎								

ナシ

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	赤星病	胴枯病	枝枯病	疫病	黒斑病	紅粒がんしゅ病	黒星病	輪紋病	白紋羽病	炭疽病	腐らん病	心腐れ症(胴枯病菌)	うどんこ病	褐色斑点病	ごま色斑点病
ルビゲン水	3		30	3	◎						◎						◎		
ポリオキシシンAL水	19		7	5					◎								◎	◎	
アリエッティ水	P7		14	3				◎	◎		◎								
アントラコール顆水	M3		45	4	◎				◎		◎								
			*a	1					◎										
ジマンダイセン水	M3		30	5	◎				◎		◎	◎							
チオノックFL	M3		30	5	◎				◎		◎			◎		◎		◎	
トレノックスFL	M3		30	5	◎				◎		◎			◎		◎		◎	
ベンコゼブ水	M3		30	5	◎				◎		◎	◎							
オキシンドー水80	M1		3	9					◎		◎	◎							
キノンドーFL	M1		3	9					◎		◎	◎						◎	
ドキリンFL	M1		3	9					◎		◎	◎							
バッチレート塗	M1		*d	3		◎													
ヨネボン水	M1		*k	5							◎								
オーソサイド水80	M4		3	9	◎			◎			◎	◎		◎					
ダコニール1000FL	M5		45	3					◎										
パスポート顆水	M5		30	3														西	西
			*b	3							◎								
バルクートFL	M7		14	5					◎		◎	◎					◎		
デランFL	M9	劇	60	4	◎			◎	◎		◎	◎		◎		◎		◎	
ホーマイコート水	1・M3		*a	1							◎								
ラビライト水	1・M3		45	3					◎		◎	◎							
キャブレート水	1・M4		7	4							◎	◎							
ナリアWDG	7・11		1	3					◎		◎	◎		◎			◎		
オルフィンプラスFL	7・3		1	3	◎				◎		◎	◎					◎	◎	
セルカディスDFL	7・M9	劇	60	3	◎				◎		◎	◎		◎			◎		
カスミンボルドー水	24・M1		*b	2							◎								
アスパイア水	3・M3		30	3							◎								◎
テーク水	3・M3		30	3															◎
ポリバリン水	19・M7		14	3					◎		◎	◎					◎		
アリエッティC水	P7・M4		14	3					◎			◎							
アルタベールFL	NC・M1		*a	9					◎		◎								
オキシラン水	M1・M4		3	9					◎		◎	◎		◎				◎	
バルクガード水	M3・M7		45	4					◎		◎	◎							
ダイパワー水	M4・M7		14	4					◎		◎	◎		◎			◎		

*a:休眠期 *b:収穫後(10~11月) *c:発芽前
 *d:剪定整枝時及び病患部削り取り直後、及び病枝切除後(ゆ合促進) *e:落花直後まで
 *f:3~6月 *g:収穫後~開花前 *i:発病前~発病初期 *j:植付前 *k:収穫後~発芽前まで

m:マシン油乳剤で希釈塗布 苗:苗木 日:日本ナシで登録 西:西洋ナシで登録

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒害 性	使用 時期 (回数)	※適 用回 数	アザ ミウマ 類	チャ ノキ イロ アザ ミウ マ類	ア ブ ラ ム シ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類	ナ シ キ ジ ラ バ イ 類	ナ シ グ ン バ イ 類	カ メ シ ホ ソ ノ ガ ガ 類	ナ シ チ ビ シ ガ ガ 類	シ ン ク イ ム シ 類	ハ マ キ ム シ 類	ケ ム シ バ ト ウ 類	ス カ シ バ ト ウ 類	ヒ メ ボ ク ム シ 類	カ ミ キ リ ム シ 類	キ ク イ ム シ 類	ハ ク ダ ニ 類	セ ナ シ サ ビ ダ ニ 類	そ の 他 害 虫		
コロマイト乳	6		1	1																		◎◎		
ジャックポット顆水	11A		*e	-	日									◎										
チューレックス顆水	11A		*e	-	日									◎										
デルフィン顆水	11A		*e	-											◎									
ファイブスター顆水	11A		*e	-											◎									
クムラス顆水	UN		-	-																				◎
アタックオイル	UNM		*b	-				◎																◎◎
スピンドロン乳	UNM		*a	-																				越
スプレーオイル	UNM		*b	-				◎																越◎
トモノールS	UNM		*b	-				◎																◎◎
ハーベストオイル	UNM		*h	-				◎																◎◎
バイオセーフ	-		*k	-													◎							
オリオン水40	1A	劇	3	2			◎◎						◎◎◎											
ミクドテナボン水85	1A	劇	60	3	日		◎ク		◎			◎◎												ミ
サイアノックス水	1B		45	3	無		◎ク					◎◎												
			7	3	有		◎ク					◎◎												
スミチオン水40	1B		21	6	無		◎ク		◎◎◎			◎◎◎												
			14	6	有		◎ク		◎◎◎			◎◎◎												
スミチオン乳	1B		21	6	無		◎ク		◎◎◎			◎◎◎					ア							
			14	6	有		◎ク		◎◎◎			◎◎◎					ア							
ダイアジノンSLゾル	1B		*m	1	苗																			が
ダイアジノン水34	1B	劇	14	*c	日		◎こ		◎				◎◎シ											
マラソン乳	1B		14	*f			◎◎							ナ◎										◎
アークリン水	3A		14	3			◎					◎◎◎												
アーデントFL	3A		1	3			◎			◎			◎◎											◎
アグロスリン水	3A	劇	1	3			◎			◎			◎◎◎											セ
アディオン乳	3A		1	2			◎			◎			◎◎											
アディオンFL	3A		1	2			◎			◎			◎											
サイハロン水	3A	劇	7	3			◎			◎			◎◎◎											
スカウトFL	3A	劇	1	5			◎			◎			◎◎											
テルスター水	3A		1	2			◎			◎			◎◎◎											◎
テルスターFL	3A	劇	1	2			◎			◎			◎◎											◎
トレボン水	3A		14	3			◎			◎			◎◎											
バイスロイドEW	3A	劇	7	2			◎			◎			◎◎											
マブリック水20	3A	劇	30	2			◎			◎◎◎			◎◎◎											◎◎
マブリックEW	3A	劇	30	2			◎			◎◎◎			モ◎											
ロディー水	3A	劇	1	2			◎			◎			◎◎											◎ガ
ロビソッドエアゾル	3A		1	5												◎◎◎								
アクタラ顆溶	4A		1	3			◎	コチ		◎			◎											
アドマイヤー顆水	4A	劇	*i	2			◎	コ		◎														

ナシ

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒害 性	使用 時期 (日数)	使用 回数	※適 用品 種等	アザ ミウマ	チャ ノキ イロ アザ ミウマ	ア ブ ラ ム シ	カ イ ラ ム シ	ナ シ キ ジ ラ バ イ	ナ シ グ ン バ イ	カ メ ホ ソ ノ	ナ シ チ ビ シ	ナ シ ク イ ム シ	ハ マ キ ム シ	ケ ム シ	ス カ シ バ	ヒ メ ボ ク ト	カ ミ キ リ ム シ	キ ク イ ム シ	ハ ダ ニ	ニ セ ナ シ サ ビ ダ ニ	そ の 他 害 虫
アドマイヤー水	4A	劇	*i	2			◎			チ	◎												
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		1	3			◎	◎	コ	チ	◎		◎	◎									
アルバリン粒 スタークル粒	4A		*L	1	苗		◎																
ダントツ溶	4A		1	3			◎	◎	コ	チ	◎		◎	◎									
バリアード顆水	4A	劇	1	3			◎	◎	ク		◎		◎										
ベストガード溶	4A		14	3		◎	◎	◎		チ	◎												
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3			◎	◎			◎	◎	◎										ヒ
トランスフォームFL	4C		1	3			◎	◎															
ディアナWDG	5		1	2		◎	◎			チ			◎	◎									
デリゲートWDG	5		1	2		◎	◎			チ			◎	◎									
コルト顆水	9B		1	3			◎	◎	◎	チ													
チェス顆水	9B		14	2			◎																
ニツラン水	10A		7	1																		◎	
バロックFL	10B		14	2																		◎	
コテツFL	13	劇	1	3			◎														ハ	◎	ヨ
アタブロンSC	15		21	4										◎									
カスケード乳	15		14	2										◎								◎	
デミリン水	15		30	3									◎	◎									
ノーモルト乳	15		1	2								◎	◎	◎									
アブロードFL	16		30	2						幼													
ファルコンFL	18		1	2											◎	◎							
マトリックFL	18		1	3											◎	◎							
ロムダンFL	18		7	3											◎	◎							
カネマイトFL	20B		1	1																		◎	◎
マイトコーネFL	20D		1	1																		◎	
サンマイト水	21A	劇	21	1			◎			チ												◎	◎
ダニトロンFL	21A		14	1																		◎	◎
ハチハチFL	21A	劇	30	1	◎	◎	◎	◎	ク	チ												◎	
ピラニカ水	21A	劇	*L	2	苗	◎	◎	◎		チ												◎	
ビラニカ水	21A	劇	14	1											◎	◎						◎	
ダニゲッターFL	23		1	1																		◎	◎
モベントFL	23		14	3		◎	◎	◎	◎													◎	◎
スターマイトFL	25A		1	1																		◎	
ダニサラバFL	25A		1	2																		◎	
ダニコングFL	25B		1	1																		◎	
エクシレルSE	28		1	3			◎							◎	◎	◎		◎					
サムコルFL10	28		1	3										◎	◎	◎		◎					
テッパン液	28		1	2						チ	◎		◎	◎			◎						

ナ
シ

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	※適用回数	アザミウマ	チャノキイロアザミウマ	アブラムシ	カイガラムシ	ナシキジラミ	ナシグンバ	カメシソノ	ナシホシ	ナシチビシ	シンクイムシ	ハマキムシ	ケムシ	スカシバ	ヒメボクトウ	カミキリムシ	キクイムシ	ハダニ	その他	害虫
フェニックスFL	28		1	2										◎	◎	◎	◎						
ヨーバルFL	28		1	2			◎							◎	◎		◎						
ウララDF	29		14	2		◎	◎																
ダニオーテFL	33		1	1																	◎		
オレート液	-		*g	-			◎																
トラサイドA乳	1B・1B		*d *j	*f																◎			
パーマチオン水	1B・3A	劇	30	5			◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎							◎	
ダニメツFL	10B・-		14	2																	◎		
アブロードエースFL	16・21A		30	1			◎															◎	
アルタベールFL	UNM・--		*a	9			ク														◎		

※適用品種等…無:無袋栽培 有:有袋栽培 日:日本なし 苗:苗木

- *a:休眠期 *b:発芽前
- *c: 6回以内(但し休眠期は1回以内) *d:4~7月(但し収穫21日前まで)
- *e:発生初期(但し収穫前日まで) *f: 5回以内(但し休眠期は1回以内)
- *g:発生初期~収穫前日まで *h:収穫後
- *i:収穫3日前まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)
- *j:6~7月(産卵初期~産卵最盛期直前)(但し収穫21日前まで) *k:幼虫発生期
- *L:育苗期 *m:ポット育苗時

- ア:アメリカシロヒトリ
- ガ:コガネムシ類
- ク:クワコナカイガラムシ
- コ:コナカイガラムシ類
- シ:アメリカシロヒトリ及びモンシロドクガ
- セ:アブラゼミ
- チ:チュウゴクナシキジラミ
- ナ:ナシヒメシンクイ
- ハ:ナミハダニ及びカンザワハダニ
- ヒ:カキノヒメヨコバイ
- フ:フタモンダグラメイガ
- ミ:ナシミハバチ
- モ:モモシンクイガ
- ヨ:ヨモギエダシャク
- ワ:ワタアブラムシ
- ガ:コガネムシ類幼虫
- コ:コナカイガラムシ類若齢幼虫

- 幼:幼虫
- 越:ハダニ類及びその越冬卵

ナシ

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
赤星病	早春(ビヤクシン類)	・冬胞子堆膨潤前に次の薬剤をビヤクシンに散布する。 バンタック水和剤75 500～1000倍	病原菌はビヤクシン類で越冬し、翌春の第一次伝染源となる。
	4月上旬～5月上旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アンビルフロアブル● 1000～2000倍 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 スコア顆粒水和剤● 2000～4000倍 デランフロアブル 1000倍 バンタック水和剤75 500～1000倍 トレノックスフロアブル 500倍 マネージDF● 6000～8000倍	降雨直前に散布すると効果高いが、散布不可能な場合は少なくとも降雨直後に散布する。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
黒斑病	休眠期	1. ボケ芽、被害枝・果を除去処分する。 2. 次の薬剤を散布する。 アルタベールフロアブル 40～60倍	二十世紀、新水は弱く、長十郎、幸水等は強い。
	4月上旬～10月上旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 キノンドーフロアブル 1000倍 スコア顆粒水和剤● 2000倍 ナリアWDG 2000倍 ベルコートフロアブル 1500倍 ポリオキシンAL水和剤 1000倍 ポリバリン水和剤 1500～2000倍 ロブラール水和剤● 1000～1500倍	重点防除時期 6月中旬～7月上旬 8月下旬～9月下旬 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
黒星病	休眠期	1. 芽基部発病芽、病葉、病果を早期に除去処分する。 2. 落ち葉は有力な伝染源となるので必ず処分する。 3. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アルタベールフロアブル 40～60倍 石灰硫黄合剤 7倍	長十郎、幸水、豊水は弱く、二十世紀は強い。 石灰硫黄合剤はカイガラムシ類、ハダニ類に対しても防除効果が高い。

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(黒星病)	4～10月	<ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル●△ 1000～1500倍 オキシラン水和剤 500～600倍 キノンドーフロアブル 1000倍 スコア顆粒水和剤● 2000～4000倍 ストロビードライフロアブル ●▽ 3000倍 トップジンM水和剤● 1000～2000倍 ベンレート水和剤● 2000～3000倍 トレノックスフロアブル 500倍 ベルコートフロアブル 1500倍 マネーヅDF● 6000～8000倍 	<p>重点防除時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出蕾期～リン片脱落期 ・開花直前 ・収穫後 <p>収穫後の防除は、翌年の伝染源を抑制する上で特に重要である。</p> <p>●耐性菌を生じやすいので連用しない。</p> <p>△アミスター10は養分転換期(5月末まで)以前の散布は避ける。 ▽ストロビーは開花始めから落花30日後までの散布は避ける。</p>
輪紋病	休眠期	<ul style="list-style-type: none"> ・枝の病患部(いぼとその周辺)を削り取る。傷口にはトップジンMペーストを塗布する。 	<p>いぼ皮病ともよばれる。枝の密生をさげ、通風を良好にする。</p> <p>重点防除時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月上旬～下旬 ・早生種 7月下旬～8月上旬 ・中生種 8月中旬～下旬 <p>●耐性菌を生じやすいので連用しない。</p>
	萌芽前 4月上旬～ 9月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・黒星病の項参照 ・次の薬剤のいずれかを散布する。 キノンドーフロアブル 1000倍 オキシラン水和剤 500～600倍 スコア顆粒水和剤● 2000倍 デランフロアブル 1000倍 ベルコートフロアブル 1500倍 	
うどんこ病	7～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル●1000倍 アンビルフロアブル●1000～2000倍 サンリット水和剤● 4000倍 ベルコートフロアブル 1500倍 ポリオキシシンAL水和剤 1000倍 ポリバリン水和剤 1500倍 	<p>重点防除時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月下旬～9月上旬 <p>●耐性菌を生じやすいので連用しない。</p>
疫病	4月中～	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通風を良好にし、草生栽培にすると有効である。 2. 発病葉、発病果はすみやかに園外へ除去する。 3. 排水を良好にし、地表面に水たまりがないようにする。 4. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 <p>オーソサイド水和剤80 1000倍 デランフロアブル 1000倍</p>	<p>土壌伝染性の病害で、密植や清耕栽培で発生しやすい。 ツクサは疫病菌が潜伏しやすいので注意する。</p>

ナ

シ

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
白紋羽病	植付前 (苗木)	<ol style="list-style-type: none"> 発病のおそれのある苗木・成木は樹幹を中心に半径約1m深さ40cmまで掘り、フジワン粒剤を成木あたり3～5kg土壌混和し埋める。 発生畑では、土壌消毒したのちに植え付ける(土壌消毒の項参照)。 次の薬剤に根部を浸漬する。 トップジンM水和剤#1 500倍液 	<p>未熟有機物の土壌埋め込みは発生を助長するので注意する。 発病樹は樹勢が回復するまで、果実をつけない。</p> <p>#1 10分間</p>
	休眠期	<ul style="list-style-type: none"> 根を露出し病患部を除去した後次の薬剤のいずれかを土壌灌注する。 トップジンM水和剤 500～1000倍 フロンサイドSC 500倍(1樹あたり 50～1000) 1000倍(1樹あたり100～2000) 	
クワコナ カイガラムシ	11～3月 (休眠期)	・粗皮削りを行う。	<p>粗皮削りを行わない老木はバンド数を多くする。 薬剤防除では白色のロウ物質が少ない孵化直後～若齢期の幼虫をねらう。 暗くて狭いところに好んで寄生する。</p> <p>#1カイガラムシ類幼虫での登録 #2コナカイガラムシ類若齢幼虫での登録 #3コナカイガラムシ類での登録 #4カイガラムシ類での登録</p>
	9月上旬	・バンド処理を行う。	
	5月上旬 ・7月上旬	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 アプロードフロアブル#1 1000倍 オリオン水和剤#4#1 1000倍 コルト顆粒水和剤#4 3000～4000倍 ダイアジノン水和剤#3#2 1000～1500倍 ダントツ水溶剤#3 2000～4000倍 トランスフォームフロアブル#4 1000～2000倍 	
ナシキジ ラミ	4月 (展葉期)	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤#40△ 800～1000倍 	<p>若葉、果枝にうろこ状に群生して吸汁する。 △早生赤種などに害害のおそれがある。</p>

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	ナシノアブラムシ 4月上旬～6月下旬 ユキヤナギアブラムシ 4月中旬～8月 ワタアブラムシ 5月下旬～7月中旬 ナシミドリオオアブラムシ 6月上旬～8月上旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アーデントフロアブル 2000倍 アディオン乳剤 2000～3000倍 アドマイヤー水和剤*a 1000～2000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 ウララDF 2000～4000倍 エクシレルSE 2500倍 オリオン水和剤40 1000倍 コルト顆粒水和剤 4000倍 サンマイト水和剤 1000～1500倍 スカウトフロアブル 1500～2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍 スミチオン水和剤40 △ 800～1200倍 ダイアジノン水和剤34 1000～1500倍 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 チェス顆粒水和剤 5000倍 バリアード顆粒水和剤 2000～4000倍 マブリック水和剤20 2000～4000倍 マイクロデナポン水和剤85 1000～2000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍	早期発見につとめ、発生初期に防除する。 ワタアブラムシは薬剤抵抗性が発達している場合があり、薬剤の効果が低いことがある。 *a露地栽培については発芽期～開花期を除く △早生赤種などに薬害のおそれがある。
ナシゲンバイ	5月中旬(幼果期) ・9月中旬～下旬(収穫期)	・次の薬剤のいずれかを散布する。 マブリック水和剤20 2000倍 マイクロデナポン水和剤85 1000～2000倍	成虫態で下草や落葉下などで越冬する。
カメムシ類	成虫 (7～9月)	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アーデントフロアブル△ 2000倍 アディオン乳剤△ 2000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍 スミチオン乳剤 1000倍 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 テルスターフロアブル△ 3000～6000倍 マブリック水和剤20△ 2000倍 ロディー水和剤△ 1000倍	△ハダニ類のリサーチエンスを回避するため、果樹カメムシ類多発年のみ使用する。

ナ

シ

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ナシノカ ワムグリ (ナシホソ ガ)	6月下旬 ～7月中 旬・9月中 旬～下旬 (収穫後)	・次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤 1000倍 ノーモルト乳剤 2000倍	
ナシチビ ガ	5月中旬～ 下旬・7月 上旬～中 旬・8月上 旬・9月中 旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 デミリン水和剤 2000～4000倍 ノーモルト乳剤 2000倍 パーマチオン水和剤 1000倍 マイクロデナボン水和剤85 1000倍	
ハマキム シ類	4月下旬～ 8月中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF* 2000～3000倍 オリオン水和剤40 1000倍 カスケード乳剤 2000倍 ダイアジノン水和剤34 1000～1500倍 パーマチオン水和剤 1000倍 マトリックフロアブル 1000～2000倍 ロディー水和剤 1000～1500倍	春期の防除に重点を おく。 *果樹類での登録 ミダレカクモンハマ キは樹肌、コカクモン ハマキは芽内に多く越 冬する。5月中旬クワ コナカイガラムシのふ 化直後幼虫との防除を 併せて行う。 7月中旬以降コカク モンハマキ、チャハマ キなどが多くなる。
シンクイ ムシ類	11～3月 (休眠期)	1. 粗皮削りを行う。 2. 被害芽を除去する。	
	5月中旬～ 6月上旬・ 6月中旬～ 下旬・7月 下旬・8月 上旬～中 旬・9月上 旬	1. コンフューザーN*などのフェ ロモン剤を設置する。 2. 被害果を処分する。 3. 次の薬剤のいずれかを散布す る。 オリオン水和剤40 1000倍 サムコルフロアブル10 2500～5000倍 ダイアジノン水和剤34 1000倍 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 ノーモルト乳剤 1000～2000倍 バリアード顆粒水和剤 2000～4000倍 フェニックスフロアブル 4000倍	*果樹類でモモシンク イガ、ナシヒメシンク イでの登録。フェロモ ン剤の項参照

ナシ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハダニ類	12～2月 (休眠期)	1. 粗皮削りを行う。 2. 機械油乳剤95*の16～24倍またはスピンドロン乳剤の50～100倍を散布する。	*落葉果樹での登録
	越冬期(10月)と春期(3月) 4月下旬・5月下旬・7月上旬～8月上旬	1. 発生源となるので下草管理を徹底する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アードントフロアブル 2000倍 カスケード乳剤 2000倍 カネマイトフロアブル 1000～1500倍 コテツフロアブル ^{#1} 2000～3000倍 サンマイト水和剤 ^{#2} スターマイトフロアブル 2000倍 ダニゲッターフロアブル 2000倍 ダニコングフロアブル 2000倍 ダニサラバフロアブル 1000～2000倍 ダニトロンフロアブル 1000～2000倍 テルスター水和剤 1000倍 ニッソラン水和剤 2000～3000倍 バロックフロアブル 2000倍 ピラニカ水和剤 1000～2000倍 マイトコーネフロアブル [△] 1000～1500倍 モベントフロアブル 2000倍	ハダニ類防除薬剤の項を参照し、薬剤抵抗性がつきやすいので同一薬剤の連用をしない。 ^{#1} ナミハダニ、カンザワハダニでの登録 ^{#2} ミカンハダニ 2000～3000倍 ミカンハダニ除く 1000～1500倍 [△] 新薬に薬害が生じるおそれがあるので7月1日以降に使用する。
ニセナシサビダニ	4月中～下旬・6月上旬	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000～3000倍 サンマイト水和剤 1000～1500倍 ダニトロンフロアブル 1000～2000倍	徒長枝先端付近の葉および枝に多く寄生する。 体長は0.2mm程度
その他の病害虫		アオマツムシ、カミキリムシ類、モンシロドクガ、果実吸蛾類、アブラゼミ、ニイニイゼミ、イラガ類、ゴマダラカミキリ、ヨモギエダシャク	

ナシ